

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	691500029
法人名	株式会社キュアドリーム
事業所名	グループホーム風ぐるま
訪問調査日	平成 20 年 9月 5日
評価確定日	平成 20 年 9月 29日
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	691500029		
法人名	株式会社キュアドリーム		
事業所名	グループホーム風ぐるま		
所在地 (電話番号)	山形県長井市今泉2945-3		(電話) (0238)88-9500
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成20年 9月 5日	評価確定日	平成20年 9月29日

【情報提供票より】(平成20年 8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	13人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/改築
建物構造	木造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	16 名	男性 8 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	4 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 79.6 歳	最低 62 歳	最高 105 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松下クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年10月1日に開設された新しいグループホームである。場所は長井市郊外から川西町に続く道路沿いに位置し、閑静な雰囲気の中で生活を送ることができる。居間の窓は南側に配され、そこから柔らかな光が差し込み、利用者を作った千羽鶴、ちぎり絵、数字をちぎり絵で作ったカレンダーの作品などと相まって、事業所全体を明るい雰囲気に演出している。また、事業所の隣には利用者が栽培する菜園があり、そこで収穫した採れたての野菜を食べることができる。利用者が作成した刺し子など地域の文化祭に出展を予定するなど、趣味や特技を大切にする事業所でもある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回の外部評価のため、該当しない。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、介護保険法で定める運営基準を全職員でチェックし、その後、会議で内容を討議する方法で実施している。また、外部評価制度の意義について会議で取り上げ、職員の理解に努めている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年10月の開設以来、4回開催している。メンバーは地域包括支援センター職員・医師・自治会長・地区長・家族代表・ホーム長と幅広く構成されている。内容は、地域の行事、外部評価制度の意義、前回の会議で出た課題について取り組んできたことなどである。家族の参加を広く求めるため任期は1年と定め、様々な意見を聞く事ができるようにしている。しかし、これまでは会議の開催日程などについて計画的に行っていなかったため、不定期の開催となっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に受け付けた意見、相談、苦情等を、毎月の家族への手紙で回答している。しかし、意見箱の設置はあるものの家族等の意見を表せる機会については、今後の課題である。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元自治会及び町内会へ加入はしているが、隣組の寄り合いなどへはまだ参加しておらず、地域の人々との日常的な交流は図られていない。今後予定されている地元公民館行事への参加や、地域文化祭へ利用者の作品を出展するなど、積極的な交流を計画中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の下で、きめ細やかなサービスを行うことを念頭に、利用者のこれまでの人生を大切に、入居前と同じ生活が継続できる理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に職員の一人が代表して理念を発声し、それに合わせ全員で確認を行っている。また、5月に「良好なコミュニケーション」と題した研修会を行い、どうしたら利用者に喜んでもらえるかを理念に即した方法で検討した。研修会終了後、職員全員にアンケートを実施し、職員一人ひとりが理念の実践について意識付けできるよう取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会及び町内会へ加入はしているが、隣組の寄り合いなどへはまだ参加しておらず、地域の人々との日常的な交流は図られていない。今後予定されている地元公民館行事への参加や、地域文化祭へ利用者の作品を出品するなど、積極的な交流を計画中である。	○	「風ぐるまだより」を回覧板で地域の方に読んでもらい、事業所への理解を深めてもらう努力はしているが、今後は、自治会や町内会の集まりへの出席、地元の行事等への参加を通して地域の人々との日常的な交流が深まるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、介護保険法で定める運営基準を全職員でチェックし、その後、会議で内容を討議する方法で、実施している。また、外部評価制度の意義について会議で取り上げ、職員の理解に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年10月に開設以来4回開催している。メンバーは地域包括支援センター職員・医師・自治会長・地区長・家族代表・ホーム長と幅広く構成されている。内容は、地域の行事、外部評価制度の意義、前回の会議で出た課題について取り組んできたことなどである。家族の参加を広く求めるため任期は1年と定め、様々な意見を聞く事ができるようにしている。しかし、これまでは会議の開催日程などについて計画的に行っていなかったため、不定期の開催となっている。	○	運営推進会議では利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況などの報告や話し合いが行われる重要な位置づけとなっていることから、今後は実施計画に基づいて定期的に開催するよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>困難な事例があった場合や、利用者や事業所の諸手続きで市の窓口に向った際、相談するなど、日頃から連携に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動状況など、毎月、担当職員が家族宛に手書きのお手紙で伝えている。また、行事や催し物があったときは、利用者の暮らしぶりがわかる写真を添えて送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に受け付けた意見、相談、苦情等を、毎月の家族への手紙で回答している。しかし、意見箱の設置はあるものの家族等の意見を表せる機会については、今後の課題である。</p>	○	<p>事業所に対して、家族が何でも言い易い仕組み作りのため、家族会のような話合いの場を設けることを期待したい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動については、なるべく行わないようにしているが、利用者と職員の相性を考慮し配置異動の検討を行っている。その際、新しい担当者は利用者馴染むよう、事前に定めた期間で記録の確認や実際の支援を行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の中で、管理者が講師になり勉強会を行っている。また、介護福祉士等の資格取得を目指している職員に対し、管理者は外部で実務について研修を受けられるよう積極的な体制作りを努めているが、全体的には、働きながらトレーニングをするための仕組みについては指導者の育成も含め整っていない。</p>	○	<p>今後は、職員の資質向上をはかるため、段階に応じて育成するための計画をたて、働きながらトレーニングする体制の取り組みを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の一事業所と個別的な案件について情報交換を行っているが、同業者との多角的な交流を通じたネットワークづくりや勉強会の機会が少ない。</p>	○	<p>地域の同業者とのネットワーク作りや、幅広い交流を期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から笹巻きやのり巻きの作り方や、職員が調理した経験のない煮物や漬物の作り方を教えてもらっている。また、将棋が得意な利用者と一緒に指して楽しむなど、日々の生活の中で共に喜怒哀楽を共有する関係の構築が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で聞き取りを行うほか、モニタリングやカンファレンスの時に職員全員で利用者の意向を把握するよう努めている。また、言葉による意思疎通が困難な利用者がある場合は、アセスメントや日々の介護日誌などから利用者の意向が汲み取る事が出来るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たり、サービス担当者会議を開催している。会議のメンバーは管理者、職員全員、家族で構成され、それぞれから意見を聴取し、介護計画書作成に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを実施し、その結果を基に、管理者、職員全員、家族でサービス担当者会議を開催している。メンバー間で日程の調整が難しい場合もあるが、出来る限り家族が出席できるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	契約時にかかりつけ医の変更は行っていない。通院介助は 原則家族にしているが、家族が遠隔地に居住する利 用者への支援は困難であるため、事業所が行っている。往診 については、緊急時はもとより、平時にも来てもらい、月2回 程度来所して頂く医師もいるなど、常にかかりつけ医から利 用者の状態把握をされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	契約時に家族と話し合った方針を職員同士で伝達し、 全員で共有している。昨年10月の開設ということで、こ れまで家族やかかりつけ医と方針の変更事例はない が、今後の方針変更に備え、家族やかかりつけ医と話 し合いを進めていく体制を検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者へ声をかける際は常に言葉の使い方に気をつ けている。また、利用者の記録の保管は施錠できる棚 で行っている。しかし、サービスを提供する上で、具体 的な方法を記したマニュアルや個人情報保護の方針 などが整備されていない。	○	現場でプライバシーを損ねるような言葉使いや対応をしな いため、マニュアルを作成し研修などで徹底するとともに、 個人情報の取り扱いについても個人情報保護方針や利 用目的などを明記し、事業所としての対応を明確にするよ う期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の希望を伺い、体調を考慮しながら、でき るだけ一人ひとりの意向に沿う形で支援を行っている。 また、職員の勤務交代時には、申し送りでの職員 へ、その日の利用者の意向や予定などを伝え、利用者 のペースが崩れないよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは職員とともに利用者ができる範囲で自主的に行っている。メニューは法人の栄養士が決めているが、利用者の希望で調理法を変えたり、事業所内の菜園で利用者が栽培する野菜を追加するなど、臨機応変に対応し、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、週3回と決めているが、希望があれば毎日でも入浴をしてもらっている。入浴を希望しない利用者については、積極的な声掛けにより入浴してもらうように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のこれまでの生活歴や趣味に応じて、事業所内の菜園での野菜の栽培及び収穫、共用空間で飾るカレンダーや全員で使用する布巾の作成などをしてもらい、それぞれの得意分野において役割を担ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望によりドライブや散歩などの支援を随時行っている。また、お盆のお墓参りなどについても支援を行っている。その他、通院支援からの帰り道、馴染みの店に立ち寄りたいと希望する利用者にも、その都度対応をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は鍵をかけず、職員が常に利用者の見守りを行っている。また利用者の傾向などから、特に注意を払う時間などの把握にも努めている。万が一、一人で外出した場合に、地域から支援を得られるよう地区長や地域役員へお願いをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する同一法人の事業所と合同で火災時の避難訓練を開催しているが、夜間やその他の災害については行われていない。今後、訓練を年2回に増やす事や、夜間通報訓練の実施などの計画がある。	○	地域との合同開催、夜間対応訓練、火災以外の防災訓練など今後の実施に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人所属の栄養士が栄養に配慮した献立を作成している。また、毎日の食事量、水分量は生活記録簿に記録し、職員が利用者の摂取状況を把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓は南側に配され、柔らかな日差しが部屋全体に差し込んでいる。窓のすぐ外には時季の野菜が植えられているプランタや朝顔が見え、季節感が味わえる。また、居間や廊下には利用者が作った千羽鶴、ちぎり絵、数字をちぎり絵で作ったカレンダーの作品が飾られ、和やかな空間を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌、家族の写真、孫からのプレゼント、刺し子、ジグソーパズル、神社のお札といった馴染みの物や趣味の物を自由に持ち込んでもらい、居室内で居心地良い生活が送れるように配慮している。		